

ミズニラを食害するオナジマイマイ

齊藤 吉永

古くから水田雑草として本州以南の各地に生育していたミズニラ（ミズニラ科）*Isoetes japonica* Al. Br. が最近急に減少しているのに驚いているが、その原因の一つに開発によって自生地が埋立てられたり湿田が乾田に変わったことにもよるが、実は筆者が埼玉県産のキタミソウ（ゴマノハグサ科）*Limosella aquatica* L. を水盤に栽培しているがどこからまぎれこんだのか5年前からミズニラが5—6株程生えてきた。これが例年何者にか食害されて無残な姿をさらすが消えもせず毎年新しい葉を伸ばしてくれている。

1994. 7の或る日の朝、小さなカタツムリが10数匹ミズニラの葉を食べているのを見つけた。早速カメラを持ちだして見るとほとんどが逃げだして僅か数匹が残っていたが、カメラを向けると歩きだしてしまっただけで食害しているところはキャッチできなかった。調べて見るとこのカタツムリはオナジマイマイ科のオナジマイマイ *Bradybaena simitaris* (Férussac) の幼生で日本では本州以南の全国的に分布する普通種であることが判った。このオナジマイマイは甘蔗（イネ科）*Saccharum officinarum* L. と共に世界的に広がって今ではアフリカから太平洋、印度洋諸島にまで分布するという。

ミズニラを食害する陸貝を報告しておきたい。

(1994. 9. 21)

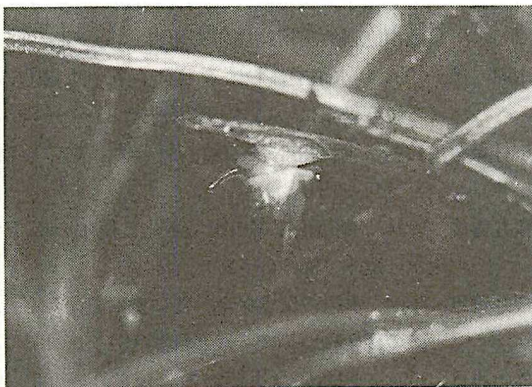


写真 ミズニラを食べるオナジマイマイ

フサジュンサイの北限

角野 康郎

北米原産の帰化植物フサジュンサイ（ハゴロモモ）は、オオカナダモ・コカナダモほどの勢いはないが今も本州以西の各地で分布を広げている。北海道からは、大滝末男氏による千歳川での生育確認の報告がある。しかし、標本が残されていないことと、筆者が千歳川を調査したとき確認できなかったことから、一時的な定着であった可能性もあると判断し、拙著『日本水草図鑑』の分布図では青森県を北限としておいた。

ところが、今年9月、札幌で開かれた日本植物学会に参加した機会に石狩・空知地方の池沼めぐりをした際、江別市に隣接する南幌町三重にある三号沼にフサジュンサイが大量に繁茂していることを確認した。この沼は「三重湖公園」として整備されているが、水草はいろいろな種類が残っている。抽水植物ではヨシ、ガマ、ミクリ、フトイなど、浮葉植物ではヒシ、ヒルムシロ、スイレン、そして水中にはイヌタヌキモ、イトモ類似のヒルムシロ属植物がフサジュンサイとともに生育していた。

フサジュンサイは、この沼が公園化されたときにスイレンなどとともに導入された可能性が高いが、繁茂状態から判断して、ここで越冬して増えていると思われる。今後の観察も必要であるが、野生化が確認された北限として報告しておきたい。

オオサンショウモの野生化

角野 康郎

オオサンショウモ *Salvinia molesta* Mitchell は、熱帯地方で湖沼や水路を埋めつくし、深刻な雑草問題を引き起こしている水草のひとつである。その繁殖力はホテイアオイに勝るとも劣らない。日本には観賞用の水槽植物として導入され、水槽や温室で栽培されている。大滝・石戸共著『日本水生植物図鑑』（1980）では「寒さに弱いので帰化状態になっていない」とあり、拙著『日本水草図鑑』（1994）でも「まだ逸出はしていないようである」としておいた。

ところが私の図鑑をご覧になった神戸市在住の白岩卓己氏から、オオサンショウモが野生化している場所があるというご指摘を受けた。場所は神戸市須磨区にある奥